

新県立中央図書館整備計画（令和3年3月） 概要版

1 計画の概要

《計画の背景》

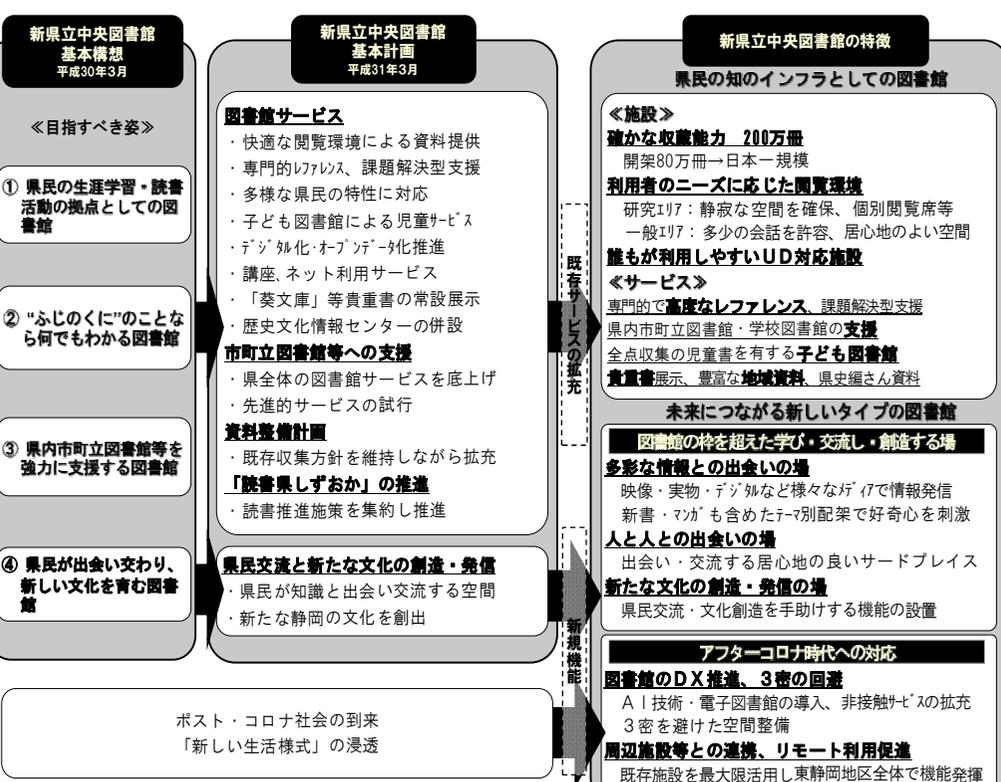
本計画は、令和2年度までに策定した「新県立中央図書館基本構想」及び「新県立中央図書館基本計画」を受け、新県立中央図書館整備の実現に向けて、導入機能や施設計画、事業手法などについて取りまとめたものです。

《計画地の概要》

- 【所在地】 静岡県駿河区東静岡二丁目
- 【敷地面積】 2.43ha（東西約230m、南北約120m）
- 【用途地域等】 商業地域（容積率500%、建ぺい率80%）
- 【地区計画】 東静岡地区（市決定） <核施設地区>
 - ・建築物の用途制限（住宅、工場等建築不可）
 - ・敷地面積の最低限度（1,000㎡）等



2 施設整備のコンセプト



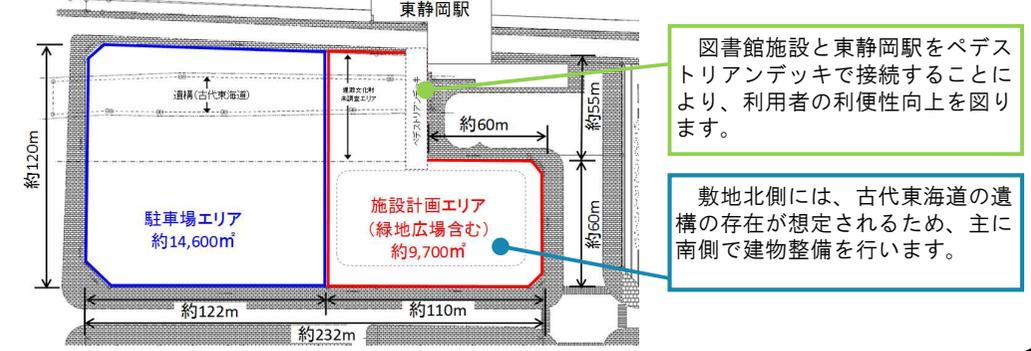
3 導入する機能（※詳細は別紙）

全館移転に伴い、既存の県立中央図書館機能を拡充します。さらに、新たなタイプの図書館としての機能を拡張するため、県民の学び・交流を通じて新たな文化の創出につながる機能を導入します。

導入機能	内容	想定規模 (※共用部含む)	運営主体	管理・運営方針
従来の図書館機能	書架／閲覧席／課題解決型サービスコーナー／新聞閲覧コーナー／児童室／読み聞かせの部屋／子ども図書研究室／貴重書展示コーナー／歴史文化情報センター／学習室／サイレントルーム／個室研究室／公開書庫／閉架書庫／貴重書庫 等	15,100㎡程度	県	根幹業務は県直営を維持し、定型業務は民間のノウハウを取り入れ効率化を図る
新しいタイプの図書館機能	情報発信コーナー／テーマ別配架コーナー／オープンコラボレーションスペース／多目的ホール／セミナールーム／ラボ／カフェ／大学コンソーシアム事務室 等	4,500㎡程度	民	民間のノウハウを最大限活用するため、指定管理者制度等の運営手法を想定
（施設計）		19,600㎡程度		
緑地広場・テラス	○ アフターコロナ時代に対応した外部空間による閲覧席確保、憩いやすさの場		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定
駐車場（平面） 駐輪場	○ 新県立中央図書館及びグランシップ利用者用駐車場（550台） ○ 新県立中央図書館利用者用駐輪場		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定
歩行者用通路 (ペデストリアンデッキ)	○ 東静岡駅と新県立中央図書館を連絡		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定

4 施設計画

敷地東側を緑地広場を含む施設計画エリアとし、西側を駐車場エリアとします。



図書館施設と東静岡駅をペデストリアンデッキで接続することにより、利用者の利便性向上を図ります。

敷地北側には、古代東海道の遺構の存在が想定されるため、主に南側で建物整備を行います。

6 事業手法

広くアイデアと人材を求めつつ、コストと性能の確実性を担保出来る方式を検討し、アフターコロナ時代に対応した「新しい図書館」を確実かつ早期に実現する事業手法とします。

- 発注方式

設計	プレ・デザインを取り入れた改良版公募型プロポーザル
工事	一般競争入札（総合評価落札方式）【想定】※今後検討
- 概算事業費
180億円程度
※設計、建設（図書館施設、ペデストリアンデッキ、駐車場等）、備品・システム費等含む

7 スケジュール



3 導入する機能

県民の知のインフラとしての図書館

県立図書館として相応しい蔵書と専門性の高い機能を拡充するとともに、県民に開かれた親しみのある図書館として全国に先駆けたアフターコロナ時代の新たな総合図書館を目指します。

利用者のニーズに応じた閲覧環境

●調査研究に没頭できる環境



静かな空間・個別閲覧席を提供
飲料摂取可能とし、電源も用意



沖縄県立図書館

●豊富な蔵書をより身近に利用できる公開書庫



貸出カードによる入室管理で
より多くの本と出会う機会を創出

●全点収集の児童書を活かした子ども図書館



＜子ども図書研究室＞
保護者等を支援し子どもの読書活動を推進

豊富な蔵書（収蔵能力200万冊）を活用したサービス

- 豊富な学術書・研究書を活用した高度なレファレンス
- 静岡県全体を支える県内図書館の支援
- 地域資料の充実等“ふじのくに”のことなら何でも分かる図書館



ブース形式で回りに配慮した
レファレンスカウンター



活用だけでなく
保存にも配慮した地域資料・貴重書展示

●生活に密着した課題解決型サービス



健康・医療など県民の身近な課題を
様々な資料で解決



山梨県立図書館

県内図書館の中核

●居心地の良い様々なタイプの閲覧席



ゆったりとした閲覧席・机の千鳥配置等で「新しい生活様式」にも配慮



沖縄県立図書館

県民に開かれた図書館



＜児童室＞
乳幼児・児童へ貸出や
読み聞かせ等を行う

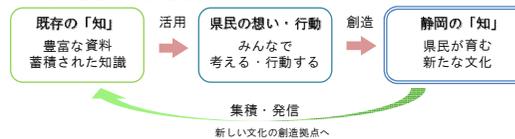


山梨県立図書館

未来につながる新しいタイプの図書館

学び、交流を通じて“ふじのくに”の新たな文化を創造する場として、①本県の魅力を学び、②多様な人々が交流し理解を深め、③新しい文化を創造・発信するという3段階を想定しており、それぞれの段階に合わせた「学ぶ」「交流する」「創造する」3つの機能を導入します。

＜新しい図書館のかたち＞



学ぶ ～静岡を知る～

- 静岡の魅力を学ぶ
 - 静岡に関する情報の提供
 - ・多様なメディアを活用した情報提供
 - ・好奇心を刺激するテーマを設定し、幅広いジャンルの本を配架
 - 学び・体験の機会の創出
 - ・企業や大学等と連携した展示会・体験講座の実施

交流する ～理解を深める～

- 県民の多彩な出会い・学び合いを通じて静岡への理解を深める
 - 情報交換
 - ・利用者相互の自由な情報交換の場の提供
 - ネットワークの構築
 - ・県民同士の交流を活性化させるイベント・事業の実施
 - ・多文化理解を促す交流会の開催

創造する ～新たな文化を創造する～

- 静岡の新しい文化を創造する
 - 情報を発信する
 - 創造活動の取組支援
 - ・地域の課題解決や新しい価値創造の創出に向けたプロジェクトの実施
 - ・様々な創造活動に対応したラボの設置

【施設イメージ】



←多様なメディアを活用した
「情報発信コーナー」



テーマごとに幅広い
ジャンルの本を配架する
「テーマ別配架コーナー」→



←利用者同士の交流を促す
「オープンコラボレーションスペース」



交流会等のイベントを開催する
「多目的ホール」→



多彩な体験や創造活動を行う「ラボ」



北海道科学大学

カフェ・ラウンジ

飲食をしながら読書や交流ができる機能を整備します。



緑地広場

県民の憩い・やすらぎの場となる、緑あふれる施設の玄関口を整備します。



屋外閲覧席、オープンなイベントスペースとしても利用します。

